

令和7年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立出雲中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・基礎的な語彙力を向上させるための授業改善を行った。
- ・「知識・技能」を効果的に活用する授業展開を行った。

(2) 課題

- ・「思考・判断・表現」の力を向上させるための授業改善。
- ・「知識・技能」を効果的に活用する力を育むための授業展開。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	「言葉の特徴や使い方に関する事項」以外は目標値を上回っている。	/	/
第2学年	「話すこと・聞くこと」「文学的な文章の内容を読み取る」以外は目標値を下回っている。	「我が国の言語文化に関する事項」「インタビューの内容を聞き取る」以外は目標値を上回っている。(第1学年時)	/
第3学年	「文法語句に関する事項」「説明的な文章の内容を読み取る」「文章を書く」以外は目標値を上回っている。	「文法語句に関する事項」「主体的に学習に取り組む態度」以外は目標値を上回っている。(第2学年時)	「我が国の言語文化に関する事項」「インタビューの内容を聞き取る」以外は目標値を上回っている。(第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「漢字を書く」「文法・語句に関する事項」の項目に関しては、正答率が低く、課題がみられる。	目標値は上回っている。しかし、苦手意識が高い生徒が多いため、改善の余地がある。	目標値は上回っている。意欲的に取り組む姿勢をもってしている生徒は少なくない。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ほとんどの項目達成値を下回っている。特に「我が国の言語文化に関する事項」に課題が見られる。	ほとんどの項目で達成値を下回っているものの、「文学的な文章の内容を読み取る」項目においては達成値に近い。	目標値を下回っているため、意欲的に取り組む姿勢を身につけていく必要である。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値は上回っているが、「文法・語句に関する事項」に課題が見られる。	目標値を下回っている。特に「書くこと」の正答率が低く、改善の必要性がある。	高い意欲で学習に取り組み、自らの考えを深めようとする生徒が多い。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業の初めに語彙の指導を行い、活用できるよう定着を促していく。定期的にテストを行う。文法・語句に関する知識・理解・能力を文章読解の場面で指導していく中で活用させる。	話すこと・書くことの能力を向上させるため、自らの意見を考える時間を作り、それを文章化すると共に、意見交換やグループワークを充実させ、これらの力を伸ばしていく。	定期的に学習を振り返らせて『自らの学習を調整しようとする側面』を伸長させる。学習目標の明確化とノートやワークシートの工夫を通じて、粘り強い取組を行おうとする側面を伸長させる。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業の冒頭で漢字の学習時間を設け、小テストでそれを確認することで、基礎的な学力を定着させる。様々な文章を読む中で、語彙力や文法に関する力を身につけさせ、知識・技能を高めていく。	書くことの能力を向上させるために自らの意見を確立させたいうで、記述活動を行っていく。読むことの能力を向上させるために、文章に対する意見を書く活動を充実させる。	定期的に学習の振り返りを行い、定期考査の自己反省を通じたりして『自らの学習の課題を明確にする力』をつけ、学習目標の明確化とノートやワークシートの工夫を通じて、自身で工夫しながら学習をする姿勢を身につけていく。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
漢字の小テストを実施し、活用させることで基礎的な学力の定着を図る。文法・語句は、文章の読み取りと共に、それぞれの特徴を踏まえさせながら活用を促す。	「書くこと」の能力を向上させるために、相手・目的意識もたせて活動に取り組みさせる。また、小集団や全体の交流活動をとおり、個人の表現力を高めていく。	課題解決の意義を感じられる活動を設定し、より主体的に取り組めるようにする。また、ワークシートや作品の評価の迅速なフィードバックにより、意欲の喚起を図る。